

「大阪教育維新を市町村

橋下教育 選挙目



一体、何をやりたいのか？

歳で吹田市議に当選して以来、教育問題ばかりを議会で質問してきたが、市議一年目で躓^{つまず}いていた。○七年末、彼は市の職員からこん

石原都知事との連携は？

と思っても無理。トップの知事と、末端の市議会議員たちが連携すれば、動かない山が動くかもしれない、と。そしたらすぐに秘書から電話がありました」

そう語る神谷氏は、三十四歳。さわやかな熱血漢ふうの若者で、高校の元教員という経歴をもつ。二十九



橋下シンパの読者も
この記事だけは
読んでください

を語り合った人物は長い付き合いを経て橋下氏の本音を知ることになった。子供たちの教育が選挙のために利用されていたのだ――。

な依頼を受けたのだ。

「学校の卒業式で、日の丸、君が代をやるよう、議会で言ってくれないか。言ってくれる市議がいらないんだよ」

当時、吹田市議会は共産党が第一党で、労組系の民主連合や公明党系が多数を占めていた。快諾した神谷氏が、議会で火だるまになってしまふのだ。

「僕についたレッテルが、

親学はよそでやって下さい

「知事は発信力があります。

でも、一人で言い続けても動かない。現場を知る市議とチームを作りましょう」

手紙を送り、知事室に呼ばれた神谷氏がそう語ると、橋下氏は膝を打った。

「面白い。何人くらい集められますか」

こうして○九年一月、三十人ほどを集めた第一回会合が、梅田のビルで開かれた。参加した市議の一人が振り返る。

「知事が来る前に、みんな

「無所属一人会派の吹田の右翼」。以来、何を質問しても、右翼と呼ばれて取り合ってもらえない。議会で孤立し、正直、もう市議を辞めようと思いました」

しかし、日本の教育を変えたいという熱い思いをもつ他県の若い市議らを、彼は仲間にしていく。そこへ颯爽と大阪に登場したのが、橋下知事だった。

で『会の名前、どうする？』

と話し合いました。『改革を目指すんだから、やっぱり維新やろ』ということで、大阪教育維新を市町村からはじめる会」と決定しました」

ちなみに、この時点で「大阪維新の会」はまだ結成されていません。会合に現れた橋下知事はこう提案した。「府下全域の共通のテーマを見つけて、みんなで話しかって改革しませんか」

さっそく飛び出したの